

会議録

会議の名称	第26回藤井寺市子ども・子育て会議
開催日時	令和4年5月12日(木) 10時30分から12時00分
開催場所	藤井寺市役所 本庁3階 305会議室
出席者	委員：岡本 祐典・興石 由美子・中辻 智子 松崎めぐみ・星野 智子・松田 直子 下村 富美枝・春名 絵美・爲貞 修子 (順不同・敬称略)
欠席者	なし
会議の議題	1. 藤井寺市子どもの貧困対策推進計画にかかる実態調査について
会議資料	・次第 ・出席者一覧 ・(資料1) 子どもの貧困に関する実態調査に係る調査票の配付・回収について ・【保護者用】藤井寺市子どもの生活に関する実態調査(案) ・【子ども用】藤井寺市子どもの生活に関する実態調査(案)
会議の成立	成立
傍聴者数	0人
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記
記録内容の確認方法	会長の確認を得ている。
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開

第26回藤井寺市子ども・子育て会議

日時：令和4年5月12日(木) 10時30分～12時00分

場所：藤井寺市役所 本庁3階 305会議室

1. 事務局挨拶

2. 参加者紹介

3. 議事

○藤井寺市子どもの貧困対策推進計画にかかる実態調査について

4. 議事録

事務局： 委員9名中9名の出席で会議が成立。なお、傍聴人は0名であり、今回は計画策定業務を委託しているコンサルタント業者も出席している旨、報告させていただく。

会長： それでは次第に沿って進める。藤井寺市子どもの貧困対策推進計画にかかる実態調査について、事務局より説明をお願いします。

～ 事務局より資料1～3に沿って説明 ～

会長： 調査票の配布・回収方法、調査票2種類についてご説明いただいた。まずは、調査票の配布・回収について、国・府及びすでに調査を行った市町村等の事例や前回の会議で出た意見を参考に考えていただいているが、先ほどの説明に対し何かご意見ご質問はあるか。

委員： 学校の負担も考慮した方法であると思うが、前回の会議でも意見があった、子どもと保護者がともに家庭で回答することにより何かトラブルが起きないかが気になる。

また、子育てに熱心な方ほど子どもの回答内容に干渉してしまうのではないかと思います。実際に子育て中の委員はどう思うか伺いたい。

委員： 親が希望を言ってしまい、子どもがそれに引っ張られる懸念はあると思う。ただ様々な理由により学校で回答を記入することが難しいところもあると思う。プライベートなものだという位置づけがわかるような説明を別紙等を書いておけば、概ね調査の趣旨は分かるのではないだろうか。そのようなものがないと子どものアンケートを見て、口出ししてしまうかもしれない。

委員： 子どもが保護者の顔色を見て意見を変える可能性はあると思う。学校での記入の時間を取ることができないのであれば、放課後等に居残りをして書いてもよい環境を整えていただけたらと思う。

委員： ホームルームの時間などを使って学校で書けた方が子どもの負担が少ないと思う。また、配付前に学校の先生から説明があるのかとは思いますが、これを読んだだけで全員がきちんと理解できるとは考えにくい。

事務局： 家庭で書くことへの懸念や学校の先生の負担も含め、教育委員会や学校と調整し十分検討をしたうえで、現在の配布回収方法となっている。学校の先生には趣旨等について事前に説明をし、配布の際の子ども達への声かけなどをしていただく予定で考えている。

副会長： 学校側も調査については知っておくべきだと思う。調査時間がどれくらいかかるのか知ったうえで、学校のどこかの時間をアンケートの回答に使うことはできないのだろうか。

また、双子の場合、母親は2枚のアンケートを書くことになるのか。そうなると、子どもによって回答に差をつけてしまうこともある。この場合、調査としてどの程度信憑性があるのか少し疑問に思う。

委員： 特に中学生は、学校から子どもを通じて配布した書類等が保護者に届かないこともある。いかに保護者へ届けるかという説明が大事。中学生は、アンケートの経験があるので、アンケートの回答は慣れていると思われる。わかりやすい調査票だと思うので、トラブルになりそうな感じではない。

会長： 市としては、今回の貧困の調査は親子の紐づけが重要であると考えていると思う。

事務局： ご指摘の通り。親子間の回答の紐づけが大事なことであり、子どもは学校で、親は家庭で記入となると、紐づけできるようにそれぞれのアンケートに番号をつけるといった工夫が必要となる。

過去に市で行った番号を付与したアンケートでは、個人が特定されるのではという市民からの意見をいただいた経験もあり、今回は、親子の調査票を同じ封筒に入れ、家庭で記入してもらう方法で、個人が特定されることなく誰にも見られないという安心感を伝えて調査することが趣旨のひとつである。

会 長： 例えば、提出用の大きな封筒を学校で預かっておいて、子どもは学校か家庭で回答し親は各家庭で回答しそれぞれ封緘したものを学校に持ち寄り、大きな封筒に1つにすれば回答内容を見られることはないため、家庭で書きにくい子どもも回答しやすくなるのではないだろうか。

また、教員の忙しさやどの学校でも統一できるやり方で実施できる方法にするためこの形になっているのだと思うが、市が行う調査であるのに10分～15分程度の時間を確保できないため協力できないというのはどうかと思う。

コンサルタント： ご指摘の通り子どもが学校で書くというのも考えられるが、他市の事例で、子どもが学校で回答したところ、保護者との紐づけができなくなってしまったことがある。名前を書くと個人名が出てしまい、学校で一斉に回答することは、子ども同士の干渉もあり回答が難しいという場合もある。

今回の調査で藤井寺市の実態を把握するために重要なことは親子の紐づけであり、多くの自治体が、個人特定がされず紐づけを確実にできる方法として今回の方法を採用しており、回収率も小学生9割、中学生8割程度となることから基本はこのやり方がよいのではないかと考えている。

委 員： アンケートの製作に携わったことがあるが、重要なのはなぜこのアンケートを行うのかという視点と、どのような状況で答えるのがよいのかを明記することである。

子ども用の調査票を見ると最初の太字だけを読んで回答に入るといことになると思うが、子どもの夢や生活状況を把握する調査であることを書いたり、回答内容を他の人に見せないようにすることを太字で大きく書いたりすればよいと思う。保護者もこのような文言を見ればそれを認識されると思う。回収の仕組みも大事だが、それ以外にやれることももっとあると思う。

委 員： 回収率9割という話があったが、子どもは回答したが保護者が回答しないために子どもの調査票ごと回収されないということはないか。紐づけできないなら調査の意味がなくなってしまうか心配である。残りの1割は提出しなかったということになると、調査そのものの意味がどうかと思うので、回収率100%を目指してほしい。保護者と子どもの回収率が違うのはそういうことが原因であったのか。

コンサルタント： 先ほどご説明したのは小学生と中学生の回収率の違いだが、封を開けたらどちらか一方からしか返ってこなかったということはある。また、提出されない調査票もあり、そこが一番大事ではないかというご指摘は全くその通りと感じている。

しかし、そこはアンケートという手法で調査することの限界ではないかとも考えているが、7～8割という回収があれば家庭の経済状況と子どもの状況の関連についてかなりのことが分かる。

本当に厳しい状況にある子どもがいるということについては、今回のアンケート調査

だけでは把握しきれないため、現場の先生が把握されていたり、どこかに SOS が出てわかったりということではないかと思う。アンケート調査としては%で出せる傾向を把握するというではないかと考えている。

委員： そのあたりの難しさは重々承知している。しかし、子ども用調査票に食事について「用意されていない」という選択肢があるが、これを親が見て子どもが○をつけられるのかと思う。

委員： 他市の事例に準じる考えも理解できるが、それが藤井寺市にとって正しいやり方とは限らない。把握したい情報を可能な限り多く得るために、藤井寺市としてどのような環境を用意していくのが問題で、これは今後他市が実態調査を行う際の参考にもなると思う。今の方法が限界なのかもしれないが、過去の経験を踏まえて回収率を少しでも伸ばせるなら、そのやり方をとるべきである。

例えば、提出用封筒の封をしないで学校に持っていけば、提出の際に、2つの調査票が入っているかを確認することもできる。少しの工夫で回収率を伸ばすことができると思うがどうだろうか。

会長： 子どもによって回答しやすい状況は異なる。無記名での回答のため誰が提出し、誰が未提出なのかも分からないし、状況によっては2つ回答が入っているか分からない時もあると思う。このような状況にはどう対応してほしいか、教員が全員わかるようにマニュアルのような実施要項があればよい。

原案を大きく変えることはできないかもしれないが、委員の懸念事項は市民を代表する意見だと思うので、可能なら学校で回答時間をとってほしい。家では記入しづらかったり、家に持って帰ったら忘れてしまうという子どももいると思う。実施要項等を作成し、学校でも回答可能という形で実施するというのはどうか。

事務局： 委員の皆様からのご意見の通り、子どもが正直に書ける環境をどう整えるかが大事だと思っている。我々もそう考えて調整した結果、家庭で回答するという方向になったが、本会議でのご意見も踏まえて、庁内ネットワーク会議で再度検討させていただく。

委員： 子どもは学校で書いて封緘して、それと保護者の回答を一緒にするというのはどうか。

会長： そのようなやり方も含めてご検討いただきたい。他に何か資料1についてご意見ご質問はあるか。

～意見なし～

会長： では次に、調査票の内容について資料2と3についてご意見ご質問はあるか。

子ども用調査票の表紙に記されている「アンケートの答え方について」の注意書き部分について、静粛な中で自分の意思を書くよう促すために、2番と5番を太字にしたかどうか。

委員： 回答方法の2番と5番を太字で、大事なことだと分かる形にしておくのがよいと思う。環境的に1人でというより、人の意見を見ないで自分の意見で書いてくださいということがわかると良いと思う。

会長： 資料2と3について、大阪府・国調査と同内容の設問以外に、藤井寺市独自の質問もあるが、この部分についても何かご意見等はあるか。

副会長： 子ども用調査票3ページの質問と回答選択肢の関係だが、歯磨きの頻度と遅刻の頻度で、多い順か少ない順か順序が変わるのはなぜか。

コンサルタント： アンケートの選択肢の基本として、連続する頻度などは順番に並べ、多いか少ないかは基本的には回答が多くなりそうな順に並べるということがある。

歯みがきについては1日に2度や1度という回答が多くなるため、先に並べている。

遅刻については週4~5日という回答が少ないと予想されるものが先に来ているが、これは他の質問で同じ選択肢で回答するものが複数あることから、質問によって順番が変わるとかえって混乱する可能性があるため、このような並び方にしている。

副会長： 悩んでいることについても、悩んでいる内容を聞きたいから、「悩んでいることはない」が最後に来るということか。

コンサルタント： そうである。

委員： 頻度で並んでいるのはわかるが、社会的に悪いと思われているものが最後に来るのは嫌ではないかなと思う。「ほとんどしない」が最初でもよいのではないか。その方が○をつけやすいのではと思う。

また、調査票最初の説明のところで間違った答えや正しい答えはありませんと記載しており、正しい答えや悪い答えはないということが、設問から感じ取れるような気遣いがあってもよいのかなと思う。

会長： ご検討いただき事務局へ一任したいと思う。他に何かあるか。

委員： 子ども用調査票の問4の誰と過ごしますか、という質問で、学童保育に入っている子どもはどこに回答すればよいか。

事務局： 問4の回答の選択肢に追加する。

委員： そうなると部活動をやっている子についても検討が必要になると思うがどうか。

委員： 大阪府と同内容の質問のため調整できないかもしれないが、問 4 の回答の選択肢にきょうだいとあるが、年齢の近いきょうだいか離れたきょうだいかは把握しなくてもよいのか。

また、問 5 の回答の選択肢 14 「その他」に括弧がないがよいか。

コンサルタント： 問 4 は子どもだけで過ごしていないか、一人で過ごしている状況がどれだけあるかというあたりを把握するための質問としている。きょうだいを分けて聞くことも可能だが、逆に細かく分けすぎて分析しきれないこともある。

ご指摘の通り実態として違いがある可能性もあるが、きょうだいだけに○がついている子どもだけをさらに区分する必要がでてくる。

委員： ひとり親家庭などは、子どもだけで居ることもあり、その実態がどうかということ把握する方がよいのではないか。回答の選択肢きょうだいの後ろに兄・姉、弟・妹、成人か高校生等を追加して○をつけてもらうのはどうだろうか。

会長： きょうだいについては意見のとおり区分して聞くことも可能かと思うので、一度検討していただきたい。

委員： 回答の選択肢の「その他」について、大阪府の質問には「その他」の後ろに自由記述用の括弧がついていない。市の調査票には「その他」に括弧がついているものについていないものがあるが、統一しなくてもよいか。

事務局： 再度確認する。

会長： 質問 19 の選択肢 11 習い事の道具の具体例がもう少しあればより回答しやすくなるのではないかと思う。

ルビや括弧の有無など細かな部分は検討いただき、ほかに何かお気づきの点はあるか。

委員： 問 14 の表現について、子どもに親の仕事とお手伝いを区別できるか疑問である。子どもにとってはお手伝いであっても、親の仕事の場合も考えられる。

事務局： 子どもにとっては手伝いの範囲と思ってやっていることも多いと思うが、それがなければいろんなことができるのに、ということで区別できればと考えている。

委員： 問 14 と 15 についてだが、質問順を逆にして、回答の選択肢のような具体的な行動をしているか、その頻度はどれくらいかの順番で回答すれば、子どももイメージしやすい

のではないかと思う。

事務局： 再度、検討する。

委員： 質問 26 のいつから授業がわからなくなったかという質問について、途中からわかるようになった場合もあると思うので、いつごろからわかるようになったか、という選択肢があってもよいのではないかと思う。

また、問 30 の I について「自分は家族に大事にされている」という項目があるが、家族がこれを見た時、回答内容によってはトラブルの原因になるのではないかと思う。

やはり、子どもは学校で書いて封をして持ち帰る方が、個人情報が見えにくいことになるかと思う。紐づけは賛成だが、家族間のトラブルにならないようにする配慮も必要かと思う。

会長： 計画策定にかかる基礎資料として今回の実態調査を行うため、ネガティブな質問が多くなる傾向ではあるが、回収については再度ご検討いただきたいと思う。

学校の教員は虐待等を発見した時の通報義務もあり、そこから目を背けられない、大事な第三者である。教員向けに詳細の目的と実施要項を作成し、今回の調査の趣旨を理解し、何かあった際に対応するためにも、きちんと実態把握する必要性があることを伝え、ご理解・協力いただきたい。

また、アンケートの問い合わせ先だが、何か悩み事がある時の相談連絡先もあったらと思う。そうすれば、アンケートに調査と緊急対応という二つの意味を持たすことができるので、一度ご検討いただきたい。他に何かあるだろうか。

委員： 計画策定に向けて実態調査から始まるのは理解できるが、一番支援を必要とする子どもたちを底上げする体制を作っていくことが大切だと思っている。計画を作っていく中で、必要とする人に適切な支援が行き届くようなシステムや体制を作れたらと思う。

そこに学校も同じ熱量で協力してもらうことが大切だと考えており、学校は忙しいから、時間がないということを受け入れて進めるのではなく、臨機応変に動けるような市の体制になってほしい。

副会長： 外国にルーツを持つ保護者への対応はどうするのか。

事務局： 調査票は日本語表記しか準備する想定しかしていないが、ご連絡いただければ個別に対応することや、障害のある保護者については、調査票の読み上げ等で対応する、英語表記については大阪府の機関の協力をいただくなどを想定している。

会長： 学校との連携が大事だと思う。広報で知らせていくことも大事であるし、そもそも日本語が読めなければ問い合わせはできないし、外国語として英語のみの対応でいいのかという問題もあると思う。

委員：日本語より英語のほうが良いということは聞く。ただ、そもそも情報が入ってこないとおっしゃる方もいた。

会長：学校の先生に、保護者が外国人で回答方法等がわからない場合は市につなぐという声掛けがあってもよいと思う。

委員：市役所の方が家庭等へ行くと個人が特定されてしまうおそれもあるが、だからといって外国の方を省くというのも違うと思う。この件について課題は大きいと思う。

会長：他市や大阪府でどう対応してきたかも参考にしつつ、日本語が読めない保護者への対応は検討してほしい。

委員：保護者用調査票の問32「将来の為に貯金をしていますか」についてだが、何か具体的な支援につながる質問か。

コンサルタント：先行研究として、保護者が将来の為に貯金をしている子どもほど進学意欲が高いという調査結果がある。いくら貯蓄しているかということではなく、姿勢として保護者が将来に備えようとしているかが子どもにもかかっている。

将来の支援にどう生かすかについては、例えば大学進学に早いうちから備える姿勢を持てるよう保護者に働きかけていく、貯蓄をしているかしようと思ってもできないかというところが問題になるなら、やはり奨学金等の拡充などが検討されるべき、という話になっていくと思う。

副会長：「将来のために」より「進学のために」の方がよいのではないか。

コンサルタント：趣旨としてその方がより正確になる可能性はありますが、この質問は大阪府も実施しており、この文言を変えてしまうとかなり設問の趣旨が変わってしまい、大阪府との比較が難しくなってしまう。

委員：調査結果がどのように公表されるのかイメージがわいてこない。

国が定めた貧困の定義に何%が当てはまるのかといったことや、アウトプットのイメージ、施策につなげる材料としてのイメージを教えていただけきたい。

事務局：藤井寺市の中で相対的貧困率という数字は出す方向で考えている。それに対して国・大阪府・藤井寺市との比較も出てくると思う。それらを見て、現在市でも様々な事業を進めているところだが、市としての問題や課題についてどう施策を打っていくか、さらに必要なものがあるのかどうか、拡充の必要性の検討等を経て計画に定めていく方針である。

委員： 貧困の定義に該当する世帯の割合が出て、その中でカテゴリー分けも見えるということか。保護者の収入が低いから子どもに影響が出ているのか、ひとり親世帯だから影響が出ているのかといったこともわかるのか。

事務局： そういうことも出てくると思う。

委員： 結果は広報に掲載するか。

事務局： 市民が確認できるようホームページ等での報告書の公表や、抜粋した調査結果を掲載する予定である。

会長： 藤井寺市は、子どもの生活に関する実態調査で、これが貧困のための調査ということは全面的に出していない。アンケート調査を実施する以上、市民へのフィードバックは必要である。あくまでも子育て施策に反映するための調査を実施し、その中で貧困家庭の実態について市として分析しながら施策に生かしていくというような進め方でよいのではないかと思う。

委員： 保護者用調査票の問 44 のどんな支援があったらいいかという点について、選択肢 4 に進路等についてなんでも相談できるところがある。ここで、進学や就職等の進路について公の立場で説明してもらえる支援があるといいと思っている。
受験の形態も年々複雑化しており、学校でもそれらを踏まえ進路指導していると思うが、このような話が苦手な保護者にはそれだけでは足りないと思う。

会長： どう入れるか難しいと思うが、一度検討いただきたい。市として入れられる部分をご検討いただき、また細かな点については会議後に事務局にお伝えいただければと思う。
他に何かあるだろうか。

～意見なし～

会長： ないようなので、進行を事務局にお返りする。

事務局： 予定していた議論はこれで終了となるので、会議はこれで終了とさせていただきます。

5 閉会